

薬理学 I

責任者・コーディネーター	分子細胞薬理学講座 田邊 由幸 准教授		
担当講座・学科(分野)	分子細胞薬理学講座		
対象学年	2	区分・時間数	講義 22.5 時間
期間	前期		
単位数	2 単位		

・学習方針（講義概要等）

薬理学とは、薬が生体に働く時の生体反応、すなわち薬物と生体の相互作用を理解する学問であり、この薬物の働きを薬理作用という。本講義では、薬理作用を理解する上で必要な薬物の標的となる生体の形態と機能（しくみと働き）に関わる基礎知識を習得するとともに、「生命と薬」で学習した知識をもとにして、幾つかの基本的薬物の分子、細胞、組織器官、および個体レベルでの薬理作用を学ぶ。

・一般目標（GIO）

疾患を生体恒常性からの逸脱と捉え、恒常性維持の基盤となる生体制御の仕組みと薬物治療標的を分子・細胞・組織・臓器・個体レベルで理解する。

・到達目標（SBO）

1. 中枢神経系の形態・機能、並びに主要な疾患、また代表的な薬物を列挙し、その薬理作用を説明できる。
2. 末梢神経系の自律神経系と体性神経系の形態・機能を列挙し、代表的な作用薬と薬理作用を説明できる。
3. 心臓と血管系の形態と働き、並びに主要な疾患を列挙し、代表的な治療薬の薬理作用を説明できる。
4. 呼吸系を構成している喉頭、気管、気管支、肺、並びに呼吸筋の構造と呼吸運動の生理を理解し、主な疾患と治療薬を明示できる。またその薬理作用を説明できる。
5. 消化器系の形態と消化・吸収・代謝機構を理解し、主要な疾患とその治療薬、及び薬理作用を説明できる。
6. 泌尿器系のしくみと尿生成機構を理解し、それらに作用する代表的な薬物を明示できる。さらにその薬理作用を説明できる。
7. 生殖器官を含む内分泌器官の形態とホルモンの合成・分泌、及び作用を理解し、内分泌系に作用する薬物、並びに補充療法について説明できる。

・講義日程

(矢) 東 102 1-B 講義室

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
4/16	火	2	分子細胞薬理学講座	田邊 由幸 准教授	薬理学総論、細胞の形態、情報伝達と細胞機能
4/23	火	2	分子細胞薬理学講座	田邊 由幸 准教授	神経細胞と末梢神経系
4/30	火	2	分子細胞薬理学講座	田邊 由幸 准教授	中枢神経系 1 : 脳の構造と機能および薬物
5/7	火	2	分子細胞薬理学講座	田邊 由幸 准教授	中枢神経系 2 : 脊髄の構造と機能および薬物

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
5/14	火	2	分子細胞薬理学講座	田邊 由幸 准教授	自律神経系 1 : 交感神経系と薬物
5/21	火	2	分子細胞薬理学講座	田邊 由幸 准教授	自律神経系 2 : 副交感神経系と薬物
5/28	火	2	分子細胞薬理学講座	田邊 由幸 准教授	筋・骨格系と薬物
6/4	火	2	分子細胞薬理学講座	丹治 麻希 助教	感覚器系 : 体性感覚、内臓感覚、視覚、聴覚と薬物
6/14	金	3	分子細胞薬理学講座	丹治 麻希 助教	消化器系 : 消化器の構造と薬物
6/18	火	2	分子細胞薬理学講座	田邊 由幸 准教授	循環器系 1 : 心臓の構造と機能および薬物
6/25	火	2	分子細胞薬理学講座	田邊 由幸 准教授	循環器系 2 : 血管生物学と薬物
7/2	火	2	分子細胞薬理学講座	田邊 由幸 准教授	血液およびリンパ系と薬物
7/9	火	2	分子細胞薬理学講座	田邊 由幸 准教授	呼吸器系と薬物
7/10	水	2	分子細胞薬理学講座	田邊 由幸 准教授	腎・泌尿器系と薬物
8/20	火	2	分子細胞薬理学講座	田邊 由幸 准教授	内分泌系と薬物

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	ベーシック教科書シリーズ 14 機能形態学	玄番宗一（編）	化学同人 （定価 3,500 円）	2008
参	人体機能生理学 改訂第 5 版	杉 晴夫 他	南江堂 （定価 10,000 円）	2009
参	ギャノン生理学 原著 23 版	岡田泰伸（監訳） 他	丸善 （定価 10,000 円）	2011
参	ガイトン 生理学 原著第 11 版	御手洗 玄洋（総監訳） 他	エルゼビアジャパン （定価 21,000 円）	2010
参	ポロン・プールペープ 生理学	泉井 亮（総監訳） 他	西村書店 （定価 9,500 円）	2011

・成績評価方法

出席・学習状況の形成的評価ならびに定期試験結果に基づき総合的に判断する。